

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



WEEKLY
名古屋
ちくさ
題字 伊藤昌石

名古屋千種ロータリークラブ
承認 1982年 8月24日
例会日 火曜日 12:30
例会場 名古屋東急ホテル
事務局 TEL763-5110 FAX763-5121
会長 林 永芳
幹事 太田 和孝
公営イメージ向上委員 重見 有美

No. 7

IMAGINE ROTARY

2022～2023年度

RI会長

ジェニファーE.ジョーンズ

本日の例会

第1864回 2022年(令和4年) 9月6日(火)

友愛の日

前回の例会

第1863回 2022年(令和4年) 8月30日(火)曇

桜花学園高等学校インターアクトクラブ
活動報告

◆我らの生業

◆ゲスト紹介 10名

桜花学園高等学校インターアクトクラブ

顧問 河合 保昌先生

3年 野田 比奈子さん 林 桃花さん

福島 育実さん 山口 華さん

2年 森主 美悠さん

1年 太田 怜奈さん 井村 綾乃さん

清原 和さん 猪狩 樹さん

◆出席報告

正会員 28(23)名 出席 20名

出席率 85.00%

太田幹事報告

- 1) 本日本配布案内/①ロータリー女性の集いのご案内(ご参加の方は9/13までに事務局までご連絡お願いいたします)
- 2) 8月理事役員会承認報告
- 3) 本日本例会終了後、臨時総会を行います。
- 4) My Rotaryの登録のお願い/未登録の方は登録にご協力お願いいたします(次週 My Rotary 登録説明の時間を設けます)

林会長挨拶



インターアクトの皆さんに

本日は桜花学園から高等学校インターアクトクラブの皆さんと顧問の河合先生がお見えになっております。のちほど、皆様に活動の報告をして

いただくことになっております。

ようこそ、千種ロータリークラブの例会において下さいました。よろしくお願い申し上げます。

さて、インターアクトクラブの皆さんも、ロータリーを通じて活動することなので、もちろんテーマは奉仕の実践ということです。しかし、以前、例会でもお話をしたとおり、サービスという英語を奉仕と訳しているの、わかりにくいということもあり、私は善意という意味ととらえたほうが良く分かるような気がしています。

昨年の国際ロータリーのテーマは「奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために」でした。千種ロータリークラブのテーマは「親睦を深め、奉仕の輪を広げ、楽しく充実したロータリーライフを」というテーマでした。奉仕や善意が人生を豊かにし、楽しい充実した日々をつくるというメッセージでした。

私はこのテーマに出会い、会長エレクトとして、千種ロータリークラブの歴史も振り返ってみて、奉仕するということは、本当に自身の人生を豊かにするものだ、ひとつの結論を引きだしました。

もしかしたら、奉仕、または善意は人が豊かな気持ちになれ、豊かな人生をおくる最重要点ではないのかも考えています。仕事を通して、社会の機能として奉仕する。地域の身近なことで奉仕できることをやる。世界に奉仕できる機会があれば、できる範囲でも参加して世界に奉仕する。誇りを持って仕事をし、地域や世界に自分は貢献できているのだと感ずること、それは自分の人生を素晴らしく誇らしく豊かにしてくれるものだと思います。ロータリーの理念は、間違いなく我々を豊かにしてくれます。

ぜひ、インターアクトクラブの皆さんも奉仕の実践に際し、人のために奉仕し、善意を重ねることは自分の人生を豊かにしてくれるということを忘れないでいただきたいと思います。

今日は、身近な歌に、奉仕の理念の実行に際し、とても勇気のでる、誰もが知っている歌があります。今日はこの歌を皆さんに聞いていただいて、会長時間を終わりたいと思います。

ぜひ、歌詞の意味をよく聞いてください。では、どうぞ

♪アンパンマンのマーチ♪

ありがとうございました。

桜花学園高等学校インターアクトクラブ活動報告

3年 野田 比奈子さん 林 桃花さん
福島 育実さん 山口 華さん
2年 森主 美悠さん
1年 太田 怜奈さん 井村 綾乃さん
清原 和さん 猪狩 樹さん



朝倉青少年奉仕委員長 挨拶



青少年奉仕委員長の朝倉です。
桜花学園高等学校インターアクト
クラブの皆様、本日は、ようこそ例会
にお越しくださいました。

今年は10名もの方々にご参加い
だけました。おかげさまで、今日の
例会はいつにもまして華やかになりました。本当に、あり
がとうございます。

桜花学園高等学校インターアクトクラブは「しあわせ届け
隊」として、コロナ禍にも負けず、保育園等を訪問されて
のボランティア活動に加え、各種イベントにも積極的に参
加されています。そして、今年も、高校生ボランティアア
ワード・手話パフォーマンス甲子園に参加され、手話スピー
チコンテストへの挑戦をされた方もおられます。そして、
手話スピーチコンテストでは本選に1名の方が進出され、
ボランティアアワードでは見事「テツ and トモ賞」を受賞
されました。おめでとうございます。…どのような賞な
のでしょうか？そして、受賞されたのは、何でだろう？
活動報告を楽しみにしております。
緊張されているかもしれませんが、失敗を恐れず、明るく
楽しく、活動ぶりを聞かせてください。よろしく願いいた
します。

活動報告

☆ 1年 清原 和さん



6月に、鶴舞公園で‘花菖蒲’を
幅広い年齢の方々と交流をしな
がら植える活動をしました。初め
でのボランティアということもあ
り緊張しながらではありますが、
無事やり終えました。

また、7月にトリクマクラブへ行き、年少さんから小学生ま
でのダウン症の子どもたちとカードゲームなどを通じて
交流を深めてきました。8月には、熱田イオンで肩もみボ
ランティアをしてきました。肩もみ世界チャンピオンの長
谷川さんに伝授していただき、沢山の人の肩をもみました。
コロナ禍ということもあり、なかなか人と関わる機会

が少ない中、肩もみを通じてたくさんの人たちと交流で
き、とても良い経験になりました。

そして来てくれた方々から、たくさんの感謝の言葉や笑
顔をいただきました。

これからもこのような経験を生かして、たくさんの人を笑
顔にしていけるよう努力していきたいです

☆ 2年 森主 美悠さん



私たち2年生は私を含め3人で活
動しています。

7月末に国内派遣研修で鹿児島
県、屋久島へ行って来ました。

国内派遣研修では、様々なロータ
リアンの方がご協力して下さい

とのことで、この場を借りて感謝申し上げます。ありが
とうございました。

国内派遣研修では、愛知県では体験できない様々な事
をたくさん経験することが出来ました。そして他校の方と見
知らぬ土地で何日間も過ごすという事はとても緊張した
のですが、そのおかげでコミュニケーション能力や、自主
性、リーダーシップ性を高めることができたと思っています。

そして、私自身は、全国の高校生による手話スピーチコン
テストに応募したのですが、くやしいことに二次審査で落
とされてしまいました。全国の壁の高さを痛感しました。
挫折したままではなく、頑張っ、来年こそ是非、本選
に行きたいと思っています。

☆ 3年 福島 育実さん



3点報告いたします。

・4月にららぽーと東郷で行われ
た「子ども夢の商店街」について
／主に子どもの職業体験のお手
伝い準備、片づけをしました。子
どもたちが元気に職業体験をして

いる姿はとても誇らしく、私たちも元気をもらいました。
サポートがスムーズに進まなかった時に保護者の方にご
指摘を受けた際は少し傷ついてしまいましたが、保護者
の方とのコミュニケーションの取り方もそこで学ぶことが
できました。

・4月のワールドフェスタでの活動について／バルーンア
ートやベル、手話ダンスを披露しました。たくさんのお客
さんに見ていただくことができ、とても嬉しかったです。
・夏休みの活動／東京で行われた高校生ボランティア・ア
ワード 2022 に参加をしてきました。そこでは模造紙に活
動内容をまとめ、自分たちのブースに展示し、来てくださ
った方に活動報告をしました。会場では全国の高校生に
見ていただくことが出来、また普段は見ることができな
い他の学校の活動を知ることが出来、とてもいい機会に
なりました。

私達3年生はボランティア活動はこれで終了ですが、あ
と残っている、学校で9月に行われるステージ発表に向け
て、ダンスの練習を頑張っています。

➤ 手あそび「3匹の子ぶた」

IAC「しあわせとどけたい隊」のみなさんによる
手遊び「3匹の子ぶた」披露



みんなと楽しくやりたい、笑顔をあたえたい、幸せをあたえたい、そのようなことで活動しております。
また何かイベント等がありましたら呼んでいただけたらと思います。よろしくお願いいたします。



ニコボックス

足立 一郎	朝倉 寿宜	福井浩道
長谷川 亨	林 永芳	池森由幸
樫尾 富二	加藤 重雄	河合隆史
柵木 充明	松岡多加倫	中村明文
太田 和孝	大谷 恩	笹野義春
重見 有美	鈴木 聖三	谷口 優
東原相次郎	舍人 経昭	

桜花学園高等学校インターアクトクラブの皆さん
日頃の活動報告、よろしくお願いいたします

20件 計 59,000円



◇ 顧問 河合保昌先生より
桜花学園高等学校インターアクトクラブについて



顧問の河合保昌と申します。
高校では社会科、主に日本史と地理を教えております。大学では地理学を専攻しておりました。縁が有りまして、インターアクトクラブの顧問を創立時から引き

受けております。創立は平成7年度、ボランティア元年と呼ばれている年であります。その年には、阪神大震災が起きました。一般のボランティアが広くニュースに取り上げられることになった年です。それまで、ボランティアは、どちらかという、目立たないところで行っている印象でしたが、この年を境にボランティアがニュースでも多く取り上げられ注目されるようになりました。

昔は、ボランティア＝慰問という言い方をされておりました。慰問ということばはよくない、お互いがwinwinの関係、ボランティアを通じて、こちらも学ぶことが多くあります。‘助けてあげる’というより自分たちのためになるんだと言うことを最近非常に痛感しているところであります。

ボランティア・アワードの報告が生徒からもありましたが、今回、「テツ and トモ賞」を受賞することができました。この大会でも、会場の高校生をまとめて、楽しく和気あいあいと話をしたり、コミュニケーション能力を発揮しておりました。会場全体を明るく楽しく賑やかにしている、その点が評価されたと聞いております。

ボランティアにはいろんな形があるんだなと思っております。本校のインターアクトクラブは、「しあわせとどけ隊」という別名を持っています。

臨時総会

会員 28 名中 出席 18名 委任状6名から受理。臨時総会成立を宣言にて開会

1, 2022-23 年度会長エレクト選任の件

2022年8月16日の臨時指名委員会にて2022-23年度会長エレクト候補者に長谷川亨君を指名、ご快諾の上、同年8月16日付で理事役員会へ報告致しました。それを受けまして8月30日に開催の臨時総会にて、出席者満場一致で長谷川亨君を2022-23年度会長エレクトに選出致しました。

以上



次回例会： 2022年 9月 13日(火) 12:30 名古屋東急ホテル 3階 ルネッサンス
池森 由幸 ガバナー補佐訪問



9月は基本的教育と識字率向上月間です



基本的教育と識字率向上

<My Rotary より>

➤ 本が読めるのは何よりも素敵な贈りもの

低い識字率を回復し、子どもたちが学校に通えるようにするためのグアテマラのプロジェクト

By Diana Schoberg

今年4月、国際ロータリーのジェニファー・ジョーンズ会長がグアテマラ高地の農村にある小学校を訪れたときのこと、「この国の大統領になりたい人は誰？」と尋ねると、生徒たちの手が一斉に上がりました。ロータリーが支援する読書プログラムが村で始まる前は、生徒たちが2、3年で退学してしまうことがよくあったそうです。

「読書は私たちの社会を変えるでしょう。読書は無知を克服するための強力な手段です」と、校長のヴィルマ・ニゼス・モレイラさんは話します。学校では通常スペイン語で授業が行われますが、グアテマラでは約25の言語が話されており、それらの地域的な言語で書かれた教材はほとんどありません。

グアテマラ識字プロジェクトは25年にわたり、読書率の向上に取り組んできました。オハイオ州出身の兄弟、ジョー・バーニンガーさん(パスウェイズ・ロータリークラブ会員)とジェフ・バーニンガーさんは、1997年、図書がないグアテマラの学校で英語教師としてボランティア活動をしていました。二人は、それを解決するためのプロジェクトを立ち上げたのです。本が届いた日には盛大なお祝いが行われました。近くでボランティアをしていた歯科医のロータリアンが騒ぎを聞きつけ、何事かを尋ねました。事態を知った彼は、「ロータリーにぴったりのプロジェクトだ」と言ってくれたそうです。

校長のヴィルマ・ニゼス・モレイラさんは、グアテマラ識字プロジェクトの大きな成果を目の当たりにしています。グアテマラのロータリアンは、ほかの学校での読書プログラムも支援しており、1997年以来、ロータリー財団は48件、総額650万ドルの補助金を識字率向上のために提供してきました。これまでに90地区、800近くのクラブが参加しており、多クラブ、多地区合同の草の根プロジェクトとしては、ロータリーで最大級のものとなっています。この活動は、米国の非営利団体「Cooperative for Education」からも支援を受けています。「ロータリーの推進力と熱意があればこそ」と話すのは、Cooperative for Educationのパートナー開発担当ディレクターで、パスウェイズ・ロータリークラブの会員でもあるハワード・ロブさんです。

最初の教科書プロジェクトから、コンピューター室の設置、奨学金、書籍の提供、教師研修など、活動は広がっています。

学生は教科書のレンタル料を支払い、そのお金は回転資金に回され、5年後に教科書を交換するために使われます。「ロータリーの寄付が種となり、学校は自分たちで貯めたお金で教科書を買換えることができます」とロブさん。

村の学校のモレイラ校長は、奨学金で大学に進学した元生徒を振り返ります。その生徒は、ノーベル賞を受賞したパキスタンの活動家、マララ・ユサフザイさんについての本を読んだそうです。

「現在、この生徒はマララさんのように大きく成長することを望んでいます」と彼女は言う。「読書が彼女の人生を変えたのです」。



校長のヴィルマ・ニゼス・モレイラさんは、グアテマラ識字プロジェクトの大きな成果を目の当たりにしています



平和構築と紛争予防



疾病予防と治療



水と衛生



母子の健康



基本的教育と識字率向上



地域社会の経済発展



環境